



スタティック ルート ブリッジ ドメイン

この章で説明する内容は、次のとおりです：

- [スタティック ルート ブリッジ ドメインについて \(1 ページ\)](#)
- [GUI を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートを設定する \(2 ページ\)](#)

スタティック ルート ブリッジ ドメインについて

[Cisco APIC] リリース 3.0 (2) では、ファイアウォールの背後にある仮想サービスへのルーティングを可能にする、パーベイシブブリッジドメイン (BD) でのスタティックルート構成へのサポートが追加されました。

この機能は、通常の EPG の使用を通して、エンドポイント (EP) がパーベイシブブリッジドメインに直接には接続されていない IP アドレスへ到達することを可能にします。

スタティックルートを構成すると、[APIC] は、それをブリッジドメインを使用しているすべてのリーフスイッチ、およびそのブリッジドメインに関連付けられた契約を有しているすべてのリーフスイッチに展開します。

エンドポイントの到達可能性は、[APIC] GUI、NX-OS スタイル CLI および REST API を使用して構成できます。

注意事項と制約事項

- サブネットマスクは、/32 (IPv6 の場合は /128) にしてファブリック内の 1 つの IP アドレスをポイントする必要があります。すでに定義されているブリッジドメインサブネット内にルートを追加しないでください。
- ネクストホップは、この EPG が関連付けられているのと同じブリッジドメイン内にある必要があります。
- この機能は、名前の末尾が EX である [Cisco Nexus 9000] シリーズスイッチとそれ以降の機種によりサポートされています (たとえば N9K-C93180LC-EX) 。
- エンドポイントの到達可能性機能は、リモートリーフではサポートされません。

GUI を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートを設定する

- スタティック ルートのサブネットを作成するには、epg (fvAEPg で fvSubnet オブジェクト)、普及 BD (fvBD) 自体 BD しないに関連付けられているように構成されます。
- サブネットマスクが/32 にする必要があります (128/for IPv6) 1 つの IP アドレスまたは 1 つのエンドポイントをポイントします。これは、パーベイスブ BD に関連付けられている EPG に含まれます。

始める前に

テナント、VRF、BD、および EPG の作成

手順

-
- ステップ 1** メニュー バーで、[テナント (Tenants)] > [tenant-name] をクリックします。
 - ステップ 2** ナビゲーション ペインで、[アプリケーション プロファイル (Application Profiles)] を拡張し、アプリケーションプロファイル名をクリックします。
 - ステップ 3** [アプリケーション EPG (Application EPGs)] をクリックして、スタティック ルートの EPG を展開します。
 - ステップ 4** [サブネット (Subnets)] を拡張し、スタティック ルートのサブネットを右クリックして、[EPG サブネットの背後にあるエンドポイントの作成 (Create Endpoints Behind EPG Subnet)] を選択します。
 - ステップ 5** エンドポイントの [ネクストホップ IP アドレス (NextHop IP Address)] を入力して、[更新 (Update)] をクリックします。
 - ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックします。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。